

I 実践

1 本校の人権教育の目標

- 相手の気持ちや行動を理解し、人に対する優しさや思いやりの心を育むとともに、いろいろな活動を通して、マナーやルールを身に付け、お互いに協力してより良い集団を築こうとする児童生徒を育成する。
 - ・ 小学部：自分と友達の違いを知り、お互いに認め合い、いろいろな場面で仲良く学校生活を送ることができる。
社会の簡単なマナーやルールを知って、守ったり、守ろうと意識したりすることができる。
 - ・ 中学部：いろいろな活動の中で、自分の役割を理解し、周りの人のことを考えた行動をとることができる。
社会のマナーや簡単なルールを理解し、守ることができる。
 - ・ 高等部：様々な活動を通して、相手の立場や自己の生き方を考え、主体的・協働的に行動することができる。
 - ・ 全校で取り組める道徳教育について共通理解を図り、実践していく。
 - ・ 地域社会との交流への支援を図る。

2 実践及び成果

(1) 児童・生徒の取り組み

ア 小学部の取り組み

本校では、自他の良さに気づき、互いに認め合いながら温かな気持ちで学校生活を送ることができることを目指している。そのため、教科・領域やすべての日常生活の指導において挨拶や他者に対する意識、思いやりの心を育てる活動を行っている。児童と教師、児童同士の間で挨拶や感謝の言葉かけを教師から働きかけ、「あいさつ運動」や「ありがとう活動」を推進している。

小学校間交流や居住地校交流、近隣の学校など、他の学校の同学年の友達や学生と交流する機会を設けている。他者と交流する対外的な活動の機会をもつことで、本校の児童にとって社会性を高めるよい学習となっている。交流することで、お互いを認め合ったり社会の中で他者を意識した自分に気づいたりする機会になり、自己肯定感が高められ良い関係づくりができた。

社会の一員としてのマナーを学ぶため、公共の乗り物に乗ったり、店に行ったりしてマナーを学習する活動も行った。自分たちの暮らしや社会とどう結びついているかを学ぶことができた。

本年度から、朝の「日常生活の指導」の時間に「道徳」1時間を設定した。年間指導計画に沿って月の目標を「教室掲示」し、「振り返りカード」へ記入を行っている。毎日9分間の短い時間の中で、視聴覚教材や話を交えて行っている。



<中里小学校との交流会>



<油縄子小学校との交流会>



<バス学習>

イ 中学部の取り組み

本年度より、時間割に道徳の時間が位置付けられた。月曜日の朝に週の目標を確認し、金曜日の帰りに振り返りを行っている。目標については、ルールブックを活用したり、寸劇を取り入れたりして提示している。振り返りでは、ワークシートを用いて自己評価を行っている。1学期には、協力・協働を目標に学級旗の発表会を行い、クラスの団結を促した。

生活単元学習では、「働くこと」について学び、達人授業、職場見学、いちょう祭、職場体験と、「見る」「聞く」「体験する」という学習を繰り返した。生徒たちが実際に体験することで、生きるための実践力に結びつくことを目指し取り組んだ。特に、いちょう祭では、「達人村」と称し地域の達人たちに教えてもらった技術を保護者や地域の方に見てもらうことができた。生徒たちは、食品関係（団子・サンドウィッチ・豆乳タピオカ）や美容関係（ヘアマッサージ）、木工、撮影のブースに分かれて、意欲的に活動することができた。

総合的な学習の時間では、本校に隣接している多賀中学校との交流会を毎年行っている。最初は緊張する姿も見られたが、一緒にスポーツやゲームをすることで打ち解けて、最後のダンスでは、笑顔があふれていた。学習の場を広げることで、人を信頼する心を培い、自己肯定感を育むことへ繋げることができた。

さわやかマナーアップキャンペーンを年3回行い、自力通学の生徒がスクールバスの児童生徒にあいさつ運動をした。回を追うごとに生徒同士が笑顔で挨拶を交わす場面が増えていった。

道徳の時間や各の学習等を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育て、道徳的実践力の育成に努めている。



＜学級旗の発表会＞



＜さわやかマナーアップ運動＞



＜いちよう祭＞



＜多賀中との交流会＞

ウ 高等部の取り組み

生活単元学習「みんなのためにできること」では、人のためにできることは何かを考え、学校周辺の清掃活動に取り組んだ。今年度は、学校周辺の歩道や正門付近にたくさん落ちている落ち葉掃きを行った。各学年、クラスごとに分かれ、普段できない清掃箇所を掃除することで、身近な場所をきれいにすることの大切さを学んだ。清掃活動中、地域の人たちから「ありがとう。」や「頑張っているね。」などの言葉かけがあり、感謝される体験をすることもできた。毎日の清掃活動とともに今後も継続していきたい。

地域社会との交流として、よかっぺ祭りや茨城大学こうがく祭、オレンジリボンたすきリレーなどに参加した。よかっぺ祭りや茨城大学こうがく祭では、作業学習の時間に各作業班が作った作業製品（手工芸班…刺し子布巾、ティッシュカバー、巾着袋、エコ班…シューズキーパー、ペーパービーズ、クリーン班…ハンディモップ、栽培班…パンジーの苗、さつまいもなど）を販売している。これらの活動は、自分たちで作った作業製品の販売を通して地域の人たちと触れ合い、購入してくれた人たちに感謝の気持ちをもてる貴重な機会であり、充実感や達成感を味わうことで、今後の製品作りの意欲付けとなっている。

オレンジリボンたすきリレーは、子供虐待防止を呼びかける啓発活動で、子供虐待防止の象徴であるオレンジリボンをつきに仕立て、リレーを行うことによって、子供虐待防止への市民の関心を高める事業である。学校から大久保交流センターまでオレンジTシャツを着て走り、子供の虐待への意識を地域の住民に啓発することができた。今後も、生徒の道徳的心情や感性を耕す機会を設定していきたい。



＜みんなのためにできること＞



＜茨城大学こうがく祭＞



＜オレンジリボンたすきリレー＞

(2) 学校・教職員の取り組み

ア 人権研修会の実施

小学部、中学部、高等部で共通理解を図りながら、系統的に人権教育を推進していくために、全職員を対象として人権研修会を実施した。茨城キリスト教大学の石田隆雄先生に「障害児教育と人権～教師の指導上の葛藤と障害児の人権問題～」をテーマに講演していただいた。特別支援学校での身近な人権問題や障害児支援の新たな視点、子供のせいにしてがちな指導観からの脱皮などについての講話が、教師の意識改革につながったり、自分の指導法を振り返るきっかけとなった。保護者との連携

イ 保護者との連携

保護者との個別面談(5月・9月・2月)や夏休みの家庭訪問のほかに、必要に応じて家庭と連絡を取り合い、児童生徒の実態や進路希望などについての共通理解を図ることで個に応じた指導に努めている。

ウ 写真コーナーの設置

「おもいでひろば」として職員室前に設置している。修学旅行や作業学習、校外学習、キャリアトレーニングなど、各学部の行事の写真を掲示している。学校訪問の方々だけでなく、児童生徒も見えており、仲良くする態度・公正公平な態度を育成する上で効果的である。

II 今後の課題

- 効果的な交流や共同学習を行うための、児童生徒の実態や交流形態に応じた指導・支援の仕方
- 外部講師を迎えた全体研修会以外の各学部での研修会のもち方

III 人権コーナーの設置の様子

各学部の掲示板に、人権関係のポスターや作品募集、人権標語の本校作品などを掲示している。今年度は、高等部1階に人権コーナーを設置し、日常生活でありがちな、「人を馬鹿にしたり、悪口を言ったりしたらどうなるか」、「おどして何かをさせたらどうなるか」などを図入りで掲示することで、命を大切にしてみんなと仲良く生活するために守りたいことを啓発している。



＜高等部の人権コーナー＞